

男女がともに 認め合う社会へ

偏見や古い概念と戦った
女性がいたからこそ！

わが国で婦人参政権が認められて、70年
ゆっくりではありますが、確かな

が過ぎました。それまでの歴史を踏まえ、
歩みについてたどってみましょう！

2003年
女性のチャレンジ支援
女性のエンパワーメント

- 1871年 女性留学生派遣
(津田梅子ほか4名)
- 1875年 東京女子師範学校開校
- 1885年 荻野吟子
(日本初の女性医師誕生)
- 1900年 女子英学塾創設
- 1911年 平塚らいてう「青踏」創刊
- 1945年 女性参政権制定
- 1947年 日本国憲法施行
- 1957年 売春防止法施行

日本

- 1865年 アメリカ奴隷制度廃止
- 1893年 世界初女性参政権
(ニュージーランド)
- 1903年 マリ・キュリー
ノーベル物理学賞
- 1920年 アメリカ 女性参政権
- 1945年 フランス 女性参政権
- 1960年 女性初首相
(スリランカ)

世界

法や制度は大切。
より大切なのは
意識の改革

2010年
“ワーク・ライフ・バランス”
憲章

働き方に多様性を認め合い
育児や介護離職をなくす
明るい社会へ

男性の理解と
協力こそ大切！

2015年
「持続可能な開発のための
2030アジェンダ」

ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女兒の
能力強化を行う

- 1985年 男女雇用機会均等法
- 1991年 育児休業法
- 1999年 男女共同参画社会基本法
- 2000年 ストーカー規制法
- 2001年 県内初(小山市)
男女共同参画都市宣言

日本

- 1975年 国際婦人年
- 1979年 女子差別撤廃条約採択
- 1985年 国際婦人年10年会議
- 1995年 第4回世界女性会議
(北京)

世界

2016年
女性の活躍推進のための
各法律施行

セクハラ・マタハラ・パタハラの
増加から削減へ向けよう

人々が長い歴史のなかで学んだこと。それは自身を解放することで、
どちらか(誰か)の犠牲のうえには何も成りたないということです。
多様性を認めあい協力しあうことが今後のキーワードといえるかもしれません。